

平成 24 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社デ・ウェスタン・セラピューティクス研究所  
代表者名 代表取締役社長 日高 有一  
(コード番号：4576)  
問合せ先 経営企画室長 今井 清子  
T E L 052-218-8785

新規緑内障治療剤「H-1129」の標的タンパク質同定  
学会発表のお知らせ

当社が創製し、開発中の新規緑内障治療剤 [開発コード：H-1129] (以下、「H-1129」という) につきまして、ドラッグ・ウエスタン法<sup>(注1)</sup>を活用し、標的タンパク質<sup>(注2)</sup>を同定したことを平成 24 年 5 月 6 日～10 日に米国フロリダ州で開催された The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2012 (以下「ARVO 2012」) のポスターセッション<sup>(※)</sup>において発表いたしましたので、お知らせいたします。

なお、この学会発表につきましては、E-poster にも採用されており、ARVO 2012 終了後も ARVO 2012 が指定する WEB サイトにて閲覧可能となっております。

主な要旨は次の通りです。

- ・ H-1129 の標的タンパク質は熱ショックタンパク質<sup>(注3)</sup> Hsp90 である。
- ・ H-1129 は Hsp90 に結合する初の緑内障治療剤である。

この度発表された研究成果から、H-1129 は新規の標的タンパク質を介して眼圧下降作用を有すると考えられております。

当社はこれらの研究成果を基に、引き続き H-1129 を製薬会社等へライセンスアウトすることを目指し、活動を進めてまいります。

なお、本件による業績に与える影響は軽微であり、平成 24 年 2 月 9 日に公表いたしました平成 24 年 12 月期の業績予想およびマイルストーン開示に係る事業計画への変更はありません。

以上

## 用語解説

### (注1) ドラッグ・ウェスタン法

薬物の標的タンパク質の同定に使うバイオテクノロジーを応用した手法で、当社が発明し特許を保有しております。複雑なタンパク質精製プロセスを介せず、薬物が結合する少量のタンパク質を検出し、その遺伝子を同定することにより標的タンパク質を見出すことができる方法です。

### (注2) 標的タンパク質

薬物が作用する相手のタンパク質を標的タンパク質と呼びます。生体はタンパク質が生体内で相互に作用することによって機能しておりますが、多くの病気はタンパク質の異常な働きによって引き起こされています。これらの病気には標的となるタンパク質が必ずあると考えられております。

### (注3) 熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇して細胞を保護するタンパク質の一群であり、Hsp90などと、その分子量によりそれぞれの分子の名前がつけられています。

## ※ARVO 2012 のポスターセッション

### 当社発表演題

| ポスター番号 | 演題  |
|--------|---|
| A159   | An anti-glaucoma agent, H-1129, binds to middle domain of Hsp90<br>緑内障治療剤である H-1129 は Hsp90 のミドルドメインに結合する                         |
| A235   | Hsp90-binding compound, H-1129, produces IOP lowering and fibronectin reduction<br>Hsp90 結合化合物 (H-1129) は、眼圧下降作用とフィブロネクチンの減少作用をもつ |